

国際研究活動について

1 国総研における国際研究活動

2014年度における国総研の国際研究活動として、海外における先進事例の収集と国内における情報共有、我が国基準の国際標準化の推進、多国間・2国間連携等に取り組んでおり、以下の具体的な活動を行っている。

- ・海外における先進事例の収集と国内における情報共有（大規模土砂災害対策等の技術交流、日米欧ITSワーキンググループ会議、日・英 道路科学技術に関するワークショップ、国際建築規制協力委員会（IRCC）等）
 - ・我が国基準の国際標準化の推進（我が国の下水道技術、ダム施設に関する設計・施工技術、砂防技術、ITS技術の国際標準化の支援、住宅・建築分野におけるISO等への参画による建築規制の国際調和への貢献等）
 - ・多国間・2国間の連携等（韓国国土研究院との研究協力、日インドネシア共同研究、日ベトナム共同研究等）
- 主な国際会議（国総研主催の国際会議等）の開催結果を以下に記す。

2 主な国際会議への参加

2. 1 日米欧ITSワーキンググループ会議（米国：2014年7月18日～7月19日）

この会議は、2010年（平成22年）に締結した国土交通省道路局と米国運輸省研究・革新技術庁（Research and Innovative Technology Administration（RITA））との日米のITS分野の協力に係る覚書及び2011年（平成23年）6月に国土交通省道路局と欧州委員会情報社会・メディア総局（European Commission Directorate General for Communications Networks, Content and Technology（DG Connect））との日欧のITS分野の協力に係る覚書に基づき、米国サンフランシスコ市で開催された。本会議は、「自動運転」、「プローブデータ」、「評価ツールと方法」の3つのワーキンググループで構成される。各ワーキンググループの会議において、各国の情報交換、分担作業の内容の進捗状況の報告、今後の作業内容の確認等が行われた。

2. 2 第21回ITS世界会議、日米欧三極会議、二国間会議、ITF-VHA、FOT-Net Data（米国：2014年9月6日～9月12日）

ITS世界会議は、ITS分野における世界最大規模の国際会議であり、1994年より毎年開催されている。2014年は米国ミシガン州デトロイトにおいて開催された。高度道路交通システム研究室からは、論文発表（4件）に加え、同時期に開催されたITF-VHA、FOT-Net Data International Workshopを含む特別セッション等での登壇・プレゼンテーション（6件）を行った。また、日米欧三極会議、日独蘭澳ITS会議、日中・日韓二国間会議を通じて各国の関係当局と情報交換を行うとともに、今後のITS研究開発について議論を行った。



写真1：日米欧三極会議の様子

2. 3 日インドネシア 第13回研究連携ワークショップ（インドネシア：2014年10月5日～10月10日）

このワークショップは、2009年（平成21年）に締結した国総研とインドネシア公共事業省道路研究所（Institute of Road Engineering（IRE））との研究協力に関する覚書に基づき、インドネシア国ジャカルタ市で開催された。本WSでは、現在インドネシアで検討中のトンネル技術ガイドラインに関するオープンセミナーをインドネシア全土の技術者を対象に行った。併せて、本ガイドラインに関して日インドネシア両国の関係者間で意見交換が行われた。

2. 4 米国道路庁とのハイレベル会議（米国：2014年10月14日～10月19日）

このハイレベル会議は、日本と米国における道路行政について意見交換を行うため、米国ワシントンDCで開催され、日本側からは国土交通省の徳山技監、国総研の岩崎所長等が参加した。本会合では、両国における道路行政関係の財政状況、PPP、道路構造物の老朽化対策、効率的な道路管理に関して意見交換が行われ、特に米国における橋梁架け替えプロジェクト等の先進事例に関して活発な意見交換が行われた。



写真2 米国道路庁とのハイレベル会議の様子

2. 5 日・米 第30回橋梁ワークショップ（米国：2014年10月20日～10月23日）及び第18回 MLIT / FHWA政府間会議（米国：10月23日）

日米橋梁ワークショップは、天然資源の開発利用に関する日米会議（UJNR）の耐風・耐震構造専門部会作業部会G（交通システム）の活動として、日米交互開催で毎年行われている。今回は、米国ワシントンにて開催された。本WSでは、道路橋の老朽化対策及び耐震設計・耐震補強を中心に、耐久性設計、点検、予防保全、耐震設計、耐震補強の合理化や高度化に係わる技術開発について、両国の現状や今後の課題について質疑応答や情報交換が行われた。

MLIT/FHWA政府間会議は、日米科学技術協力協定（日本国国土交通省およびアメリカ合衆国運輸省間の交通科学技術分野における協力に関する実施取り決め）に基づき、毎年1回日米交互に開催しているものである。会議では、道路橋の老朽化対策、耐震補強、リスク管理に係わる技術基準・ガイドライン類策定の方向性や、科学的な道路管理技術開発のための取組みについて、意見交換が行われた。

2. 6 日・英 道路科学技術に関するワークショップ（英国：2014年11月4日～11月5日）

このワークショップは、1997年（平成9年）に締結された「日英道路科学技術に関する実施取り決め」に基づき、1998年（平成10年）より日英交互開催で行われている。今回のWSは、その11回目のWSにあたり、交通安全（主に高速道路の交通安全）とITSをテーマに、日英双方から発表を行うとともに、両国の交通事故の状況、今後の交通安全施策の方向性等について質疑応答・意見交換を行った。

2. 7 日インドネシア 第14回共同ワークショップ（インドネシア：2014年11月16日～11月21日）

このワークショップは、2009年（平成21年）に締結した国総研とインドネシア公共事業・国民住宅省道路研究所（Institute of Road Engineering（IRE））との研究連携に関する覚書に基づき、インドネシア国バリ他にて開催された。本会合では、両国における道路環境及び道の駅等に関する発表・意見交換、現地調査を実施した。



写真3 IREとのワークショップの様子

2. 8 日ベトナム 第9回研究連携ワークショップ（日本：2014年11月18日～11月19日）

このワークショップは、2010年（平成22年）に締結した国総研とベトナム交通省交通科学技術研究所（Institute of Transport Science and Technology（ITST））との研究協力に関する覚書に基づき、つくば他で開催された。本WSでは、両国における道路環境の現状を確認するとともに、両国における交通事情の違いを考慮した環境基準の必要性について確認が行われた。

2. 9 日・韓 第4回都市分野研究交流会議（韓国：2015年2月11日）

この会議は、2012年（平成24年）に国総研と大韓民国国土研究院（Korea Research Institute for Human Settlements（KRIHS））との間で調印した研究協力に関する覚書に基づき、韓国安養市で開催された。本会合では、都市再生に関わる課題と政策の方向性に関しての両国の報告が具体の都市の事例の紹介を含めてなされた。その後、歴史的街並みを活かした都市再生事例である全州市と群山市において、共同で現地調査を実施した。